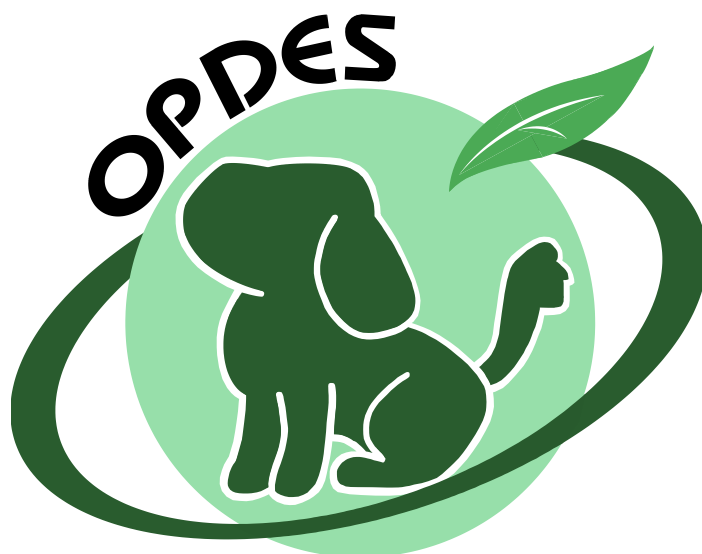


OPDES オビディエンス試験(競技)

規定 & 審査表



オビディエンスチャンピオン制度

競技会の大小に関わらず、オビディエンス1度以上のクラスに下記のポイントが与えられます
累積30ポイントを獲得した犬にオビディエンスチャンピオンの称号が与えられます

96%～100%	(評価 V 優)	10ポイント
90%～95.5%	(評価 SG 特良)	7ポイント
80%～89.5%	(評価 G 良)	5ポイント

2003年	1月 6日	初版作成
2005年	8月10日	改正
2009年	1月 1日	改正
2015年	9月 1日	改正
2017年	2月11日	改正
2022年	1月 1日	改正

OPDESオビディエンス試験（競技） 全般規定

- 血統書のあるなしに関わらず全ての犬が参加できます。ただし、未成熟な生後 12 か月未満の犬、妊娠中の犬、病気や怪我をしている犬は参加できません。生年月日がはっきりしない犬はその飼い主が生年月日を決定します。1 年以内に狂犬病ワクチンを接種している必要があります。発情しているメス犬は出場順が一番最後になります。
- 所有者、指導手ともに OPDES の会員でなければなりません。
- リードはポケットに入れるか、または肩に掛けてください(左上、右下)。犬の着衣や特殊な首輪は審査員が認めれば問題ありません。いかなる場合も首輪を締め(チョーク装着)の状態にしてはいけません。スパイク首輪の装着は認められません。
- 手には何も持ってはいけません。防寒目的以外の手袋の装着も禁止されています。また、モチベーターとなるもの(トリーツやおもちゃなど)を持って競技リンクに入ることは出来ません。
- 全ての課目は基本姿勢(ハンドラーが進行方向に向いて気をつけの姿勢を取り、犬はハンドラーと平行に座った状態)から始まり、基本姿勢で終了します。各課目の終了時に犬を誉めることはかまいません。
- 指示はどのような言葉でもかまいませんが、一動作に対して短い単一の「声符」のみで実行出来ることが理想です。手や体を使用した場合は、その度合いにより評価が下げられます。(前進を除く)
- 左リターンは、一本のライン上を往復する形で左回りします。犬の動作は、頭を軸に体を左に 180 度ひねって、あるいはハンドラーの後ろを回ってのどちらでもかまいません。
- ハンドラーが犬のもとに戻るとき、犬の右側に直接、あるいは犬の後ろを回ってのどちらでもかまいません。正面に座っている犬を左側に座らせるとき、犬は頭を軸に体を 180 度ひねって、あるいはハンドラーの後ろを回ってのどちらでもかまいません。
- 犬がハンドラーに向かう動作を含む課目(呼び寄せ・持来)を開始するとき、ハンドラーは気をつけの姿勢をとらなければなりません。
- 課目と課目の間に移動が必要な場合は犬を横につけて歩いてください。ダンベルを取りに行くときは、その地点付近まで犬をともなって移動してください。
- 審査は各課目毎に評価が下され、その評価に応じた点数が与えられます。採点の最小単位は 0.5 点とします。
- 出場者が審査表の閲覧を希望した場合、審査員はそれを拒むことはできません。しかし、審査内容に意義を申し立てる事はできません。
- 同点は同順位とします。
- 審査終了後は直ちに審査員が講評と評価と得点を発表します。審査員の署名がなされた訓練手帳(グリーンブック)の返還により競技終了とします。
- 競技中、犬が排便や排尿をした場合は 5 点の減点となります。

課目の中止

○ハンドラーの三度の指示で、その課目あるいは課目に必要な動作が実行できない場合、その課目は0点となります(競技は続行できます)。

例:三度の「フセ」の指示で犬は伏せない。

競技失格

○競技中いかなる場面(入退場や申告も含む)でも、ハンドラーのスポーツマンシップに欠ける態度、あるいは審査員が犬の行動に重大な欠点を認めた場合、競技は中止され失格となります。得点は一切与えられません。

○コントロール不能犬、あるいは犬がハンドラーのもとを離れて三度の呼び戻しでハンドラーのもとに、あるいは競技場内に戻ってこない場合も競技は中止され失格となります。

オビディエンス ビギナー 50点

- | | |
|------------------|-----|
| 1. リード付きで横に付いて歩く | 15点 |
| 2. 座って待つ | 10点 |
| 3. 伏せ—呼び寄せ | 15点 |
| 4. 伏せて待つ | 10点 |

オビディエンス 1度 (OB1) 50点

- | | |
|------------------|-----|
| 1. リードなしで横に付いて歩く | 15点 |
| 2. 常歩中の座れ | 10点 |
| 3. 常歩中の伏せ—呼び寄せ | 15点 |
| 4. 伏せて待つ | 10点 |

オビディエンス 2度 (OB2) 100点

- | | |
|------------------|-----|
| 1. リードなしで横に付いて歩く | 25点 |
| 2. 常歩中の座れ | 10点 |
| 3. 常歩中の伏せ—呼び寄せ | 15点 |
| 4. 常歩中の立止—呼び寄せ | 15点 |
| 5. 物品持来 | 20点 |
| 6. 伏せて待つ | 15点 |

オビディエンス 3 度 (OB3) 100 点

- | | |
|-------------------------|------|
| 1. リードなしで横に付いて歩く | 20 点 |
| 2. 常歩中の座れ | 10 点 |
| 3. 常歩中の伏せ—呼び寄せ | 10 点 |
| 4. 常歩中の立止—呼び寄せ | 10 点 |
| 5. 物品持来 | 15 点 |
| 6. 障害物品持来（障害の高さは最低体高以上） | 15 点 |
| 7. 前進及び伏せ | 10 点 |
| 8. 伏せて待つ | 10 点 |

オビディエンス ビギナー 50 点

* 全課目リード付き（課目 3 は外してもかまいません）

1. リード付きで横に付いて歩く 15 点 要領図

リード付きの犬を伴った 2 チーム (1 ペア) がリンクに入場し、審査員の前に進み出てハンドラーと犬の名前を申告します。

エントリーナンバーの若いチームが出発点で基本姿勢をとり、審査員の合図で要領図の様に歩きます。

犬が自らハンドラーについて歩くことが出来ていれば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーのすぐ横で、ハンドラーに集中して歩調を合わせながらついて歩くことが出来れば理想的です。（指示は、基本姿勢から歩き出す時と歩度の変更時のみの使用が理想です。群衆では、4 名のうちの 1 名の周りを右回りで、もう 1 名の周りを左回りで、8 の字を描く要領で歩きます。）

2. 座って待つ 10 点

出発点でハンドラーと犬は基本姿勢をとります。

審査員の合図でハンドラーは犬に座って待つための指示を出し、振り返ることなく 30 歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。

次の審査員の合図で犬のもとへ戻り、基本姿勢を取ります。

ハンドラーが 30 歩進んで犬と対面するまで犬が座って待つことが出来ていれば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーの座って待つための指示で、犬がその場から移動することなく落ち着いた態度で最後までハンドラーに集中して座って待つことが出来れば理想的です。

3. 伏せー呼び寄せ 15点

出発点でハンドラーと犬は基本姿勢をとります。

審査員の合図でハンドラーは犬に伏せて待つための指示を出し、振り返ることなく30歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。

(犬に装着されたリードは、基本姿勢をとる前に外してから作業を始めても構いません。リードをつけたまま作業を行う場合は、犬が伏せてから地面に置きます。)

次の審査員の合図でハンドラーは犬を呼びます。

呼ばれた犬は、ハンドラーの正面、または直接ハンドラーの左側に来て座ります。

犬が前面停座(ハンドラーの正面に座ること)を行った場合は、一呼吸(明確な間)において犬に基本姿勢をとるための指示を出さなければいけません。

犬が直接ハンドラーの左側に来る場合、ハンドラーの一度の呼び寄せの指示で犬がハンドラーの左側に来て基本姿勢をとらなければいけません。

ハンドラーが30歩進んで犬と対面するまで犬が伏せて待つことが出来ており、その後ハンドラーが犬を呼び寄せることが出来れば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーの伏せて待つための指示で犬が即座に伏せる動作に移り、その場から移動することなく落ち着いた態度でハンドラーに呼ばれるまで集中して待ち、ハンドラーの呼び寄せの指示で犬が自らハンドラーの正面、或いはハンドラーの左側を目指した明確な動作を実行し、前面停座と基本姿勢を正しく取ることが出来れば理想的です。

4. 伏せて待つ 10点

ペアのチームが課目1～3を行っている間、犬は指定された場所で伏せて待っていなければなりません。

課目3(伏せー呼び寄せ)を終えたチームは、〈伏せて待つ〉の課目を行う場所へと向かいます。エントリーナンバーが後のチームは、〈伏せて待つ〉の課目から始まりますので、リンクに入場して審査員への申告を終えたら、この課目を行う場所へと向かいます。

ハンドラーと犬は、ハンドラーが離れる方向に向いて基本姿勢をとります。

審査員の合図で犬に伏せて待つための指示を出し、リードを犬の横に静かに置いて、ハンドラーは振り返ることなく10歩進んで犬に肩を向けた状態で立ち止まります。

ペアのチームが課目3(伏せー呼び寄せ)を完了したら、審査員がハンドラーに犬のもとへ戻る合図をします。

ハンドラーは犬のもとへ戻り、伏せている犬の右側に立ちます。

次の審査員の合図で犬に基本姿勢をとるための指示を出します。

ペアのチームが課目1～3を終えるまで、3m以上移動することなく伏せて待つことが出来ていれば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーの伏せて待つための指示で犬が自ら伏せ、ハンドラーが犬のもとに戻って基本姿勢の指示を出すまで、位置を移動することなく落ち着いた態度で伏せて待つことが出来

ており、最後の基本姿勢を正しくとることが出来れば理想的です。

犬が伏せて待っている間、ハンドラーが犬に指示を与えた場合や、ペアのチームが課目 2 (座って待つ) を終えるまでに 3m 以上移動した場合、得点は与えられません。

オビディエンス 1 度 50 点

* リードは最初に行う課目の前に外します。全課目終了後に装着します。

1. リードなしで横に付いて歩く 15 点 要領図

リード付きの犬を伴った 2 チーム (1 ペア) がリンクに入場し、審査員の前に進み出てハンドラーと犬の名前を申告します。

エントリーナンバーの若いチームが出発点でリードを外し、基本姿勢をとり、審査員の合図で要領図の様に歩きだします。

犬が自らハンドラーについて歩くことが出来ていれば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーのすぐ横で、ハンドラーに集中して歩調を合わせながらついて歩くことが出来れば理想的です。(指示は、基本姿勢から歩き出す時と歩度の変更時のみの使用が理想です。群衆では、4 名のうちの 1 名の周りを右回りで、もう 1 名の周りを左回りで、8 の字を描く要領で歩きます。)

2. 常歩中の座れ 10 点

出発点でハンドラーと犬は基本姿勢をとります。

審査員の合図で犬と共に歩き出し、10 歩から 15 歩の間で歩度を変えることなく犬に座って待つための指示を出します。

その後、ハンドラーは振り返ることなく 30 歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。次の審査員の合図で犬のもとへ戻り、基本姿勢を取ります。

ハンドラーが座って待つための指示を出すまで、犬が自らハンドラーについて歩き、ハンドラーが 30 歩進んで犬と対面するまで犬が座って待つことが出来ていれば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーの座って待つための指示で犬が即座に座る動作に移り、その場から移動することなく落ち着いた態度で最後までハンドラーに集中して待つことが出来れば理想的です。

3. 常歩中の伏せー呼び寄せ 15 点

この課目は出発点に戻ることなく〈常歩中の座れ〉を終えた地点から始まります。(場合によっては出発点に戻ります。)

〈常歩中の座れ〉を終えた地点でハンドラーと犬は基本姿勢をとります。

審査員の合図で犬と共に歩き出し、10 歩から 15 歩の間で歩度を変えることなく犬に伏せて

待つための指示を出します。

その後、振り返ることなく 30 歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。次の審査員の合図でハンドラーは犬を呼びます。

呼ばれた犬は、ハンドラーの正面、または直接ハンドラーの左側に来て座ります。

犬が前面停座（ハンドラーの正面に座ること）を行った場合は、一呼吸（明確な間）において犬に基本姿勢をとるための指示を出さなければいけません。

犬が直接ハンドラーの左側に来る場合、ハンドラーの一度の呼び寄せの指示で犬がハンドラーの左側に来て基本姿勢をとらなければいけません。

ハンドラーが伏せて待つための指示を出すまで、犬が自らハンドラーについて歩き、ハンドラーが 30 歩進んで犬と対面するまで犬が伏せて待つことが出来ており、その後ハンドラーが犬を呼び寄せることが出来れば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーの伏せて待つための指示で犬が即座に伏せる動作に移り、その場から移動することなく落ち着いた態度でハンドラーに呼ばれるまで集中して待ち、ハンドラーの呼び寄せの指示で犬が自らハンドラーの正面、或いはハンドラーの左側を目指した明確な動作を実行し、前面停座と基本姿勢を正しく取ることが出来れば理想的です。

4. 伏せて待つ 10 点

ペアのチームが課目 1～3 を行っている間、犬は指定された場所で伏せて待っていなければなりません。

課目 3（常歩中の伏せ－呼び寄せ）を終えたチームは、〈伏せて待つ〉の課目を行う場所へと向かいます。エントリーナンバーが後のチームは、〈伏せて待つ〉の課目から始まりますので、リンクに入場して審査員への申告を終えたら、この課目を行う場所へと向かいます。

ハンドラーと犬は、リードを外してハンドラーが離れる方向に向いて基本姿勢をとります。審査員の合図で犬に伏せて待つための指示を出し、ハンドラーは振り返ることなく 20 歩進んで犬に肩を向けた状態で立ち止まります。

ペアのチームが課目 3（常歩中の伏せ－呼び寄せ）を完了したら、審査員がハンドラーに犬のもとへ戻る合図をします。

ハンドラーは犬のもとへ戻り、伏せている犬の右側に立ちます。

次の審査員の合図で犬に基本姿勢をとるための指示を出します。

ペアのチームが課目 1～3 を終えるまで、3m以上移動することなく伏せて待つことが出来ていれば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーの伏せて待つための指示で犬が自ら伏せ、ハンドラーが犬のもとに戻って基本姿勢の指示を出すまで、位置を移動することなく落ち着いた態度で伏せて待つことが出来ており、最後の基本姿勢を正しく取ることが出来れば理想的です。

犬が伏せて待っている間、ハンドラーが犬に指示を与えた場合や、ペアのチームが課目 3（常歩中の伏せ－呼び寄せ）を終えるまでに 3m以上移動した場合、得点は与えられません。

オビディエンス 2 度 100 点

* リードは最初に行う課目の前に外します。全課目終了後に装着します。

1. リードなしで横に付いて歩く 25 点 要領図

リード付きの犬を伴った 2 チーム (1 ペア) がリンクに入場し、審査員の前に進み出てハンドラーと犬の名前を申告します。

エントリーナンバーの若いチームが出発点でリードを外し、基本姿勢をとり、審査員の合図で要領図の様に歩きだします。

犬が自らハンドラーについて歩くことが出来ていれば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーのすぐ横で、ハンドラーに集中して歩調を合わせながらついて歩くことが出来れば理想的です。(指示は、基本姿勢から歩き出す時と歩度の変更時のみの使用が理想です。群衆では、4 名のうちの 1 名の周りを右回りで、もう 1 名の周りを左回りで、8 の字を描く要領で歩きます。)

2. 常歩中の座れ 10 点

出発点でハンドラーと犬は基本姿勢をとります。

審査員の合図で犬と共に歩き出し、10 歩から 15 歩の間で歩度を変えることなく犬に座って待つための指示を出します。

その後、ハンドラーは振り返ることなく 30 歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。次の審査員の合図で犬のもとへ戻り、基本姿勢を取ります。

ハンドラーが座って待つための指示を出すまで、犬が自らハンドラーについて歩き、ハンドラーが 30 歩進んで犬と対面するまで犬が座って待つことが出来ていれば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーの座って待つための指示で犬が即座に座る動作に移り、その場から移動することなく落ち着いた態度で最後までハンドラーに集中して待つことが出来れば理想的です。

3. 常歩中の伏せ一呼び寄せ 15 点

この課目は出発点に戻ることなく〈常歩中の座れ〉を終えた地点から始まります。(場合によっては出発点に戻ります。)

〈常歩中の座れ〉を終えた地点でハンドラーと犬は基本姿勢をとります。

審査員の合図で犬と共に歩き出し、10 歩から 15 歩の間で歩度を変えることなく犬に伏せて待つための指示を出します。その後、振り返ることなく 30 歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。

次の審査員の合図でハンドラーは犬を呼びます。

呼ばれた犬は、ハンドラーの正面、または直接ハンドラーの左側に来て座ります。

犬が前面停座(ハンドラーの正面に座ること)を行った場合は、一呼吸(明確な間)において犬

に基本姿勢をとるための指示を出さなければいけません。

犬が直接ハンドラーの左側に来る場合、ハンドラーの一度の呼び寄せの指示で犬がハンドラーの左側に来て基本姿勢をとらなければいけません。

ハンドラーが伏せて待つための指示を出すまで、犬が自らハンドラーについて歩き、ハンドラーが30歩進んで犬と対面するまで犬が伏せて待つことが出来ており、その後ハンドラーが犬を呼び寄せることが出来れば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーの伏せて待つための指示で犬が即座に伏せる動作に移り、その場から移動することなく落ち着いた態度でハンドラーに呼ばれるまで集中して待ち、ハンドラーの呼び寄せの指示で犬が自らハンドラーの正面、或いはハンドラーの左側を目指した明確な動作を実行し、前面停座と基本姿勢を正しく取ることが出来れば理想的です。

4. 常歩中の立止—呼び寄せ 15点

この課目は出発点に戻ることなく〈常歩中の伏せ—呼び寄せ〉を終えた地点から始まりです。〈常歩中の伏せ—呼び寄せ〉を終えた地点でハンドラーと犬は〈横について歩く〉の出発点に向かって基本姿勢をとります。

審査員の合図で犬と共に歩き出し、10歩から15歩の間で歩度を変えることなく犬に立って待つための指示を出します。

その後、振り返ることなく30歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。次の審査員の合図でハンドラーは犬を呼びます。

呼ばれた犬は、ハンドラーの正面、または直接ハンドラーの左側に来て座ります。

犬が前面停座(ハンドラーの正面に座ること)を行った場合は、一呼吸(明確な間)において犬に基本姿勢をとるための指示を出さなければいけません。

犬が直接ハンドラーの左側に来る場合、ハンドラーの一度の呼び寄せの指示で犬がハンドラーの左側に来て基本姿勢をとらなければいけません。

ハンドラーが立って待つための指示を出すまで、犬が自らハンドラーについて歩き、ハンドラーが30歩進んで犬と対面するまで犬が立って待つことが出来ており、その後ハンドラーが犬を呼び寄せることが出来れば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーの立って待つための指示で犬が即座に立って待つ姿勢をとり、その場から移動することなく落ち着いた態度でハンドラーに呼ばれるまで集中して待ち、ハンドラーの呼び寄せの指示で犬が自らハンドラーの正面、或いはハンドラーの左側を目指した明確な動作を実行し、前面停座と基本姿勢を正しく取ることが出来れば理想的です。

5. 物品持来 20点

ハンドラーは右手にダンベルを持ち、犬を伴って基本姿勢をとります。

審査員の合図でダンベルを前方(最低10歩程度)に投げ、ダンベルが完全に静止してから、犬にダンベルを持って来るための指示を出します。

ダンベルを持って来た犬は、ハンドラーの正面、または直接ハンドラーの左側に来て座り、ダンベルの受け渡しを行います。

ダンベルの受け渡しについては、犬が座ってから一呼吸(明確な間)においてダンベルを放すための指示を出さなければいけません。

ダンベルを受け取ったら、ハンドラーはダンベルを右手に持ち、腕を下に向けて伸ばします。

犬が前面停座(ハンドラーの正面に座ること)を行った場合は、その後一呼吸(明確な間)において犬に基本姿勢をとるための指示を出さなければいけません。

犬が直接ハンドラーの左側に座る場合は、犬がハンドラーの元に来た時に、ハンドラーの指示なしで犬が自発的にダンベルを咥えたままハンドラーの左側に座らなければいけません。

ハンドラーがダンベルを投げたのち、持来の指示があるまで犬が待機し、ハンドラーの持来の指示で犬が自発的にダンベルをハンドラーの元まで持って来て、ハンドラーにダンベルを渡すことが出来れば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーの持来の指示で、犬がはっきりとした目的意識を持ってダンベルを取りに行き、ためらうことなくダンベルを咥えてハンドラーに持ち帰り、ダンベルをハンドラーに渡すまで正しい位置に座ってダンベルを確実に咥え続け、受け渡しで明確にダンベルを離すことが出来れば理想的です。

6. 伏せて待つ 15点

ペアのチームが課目1~5を行っている間、犬は指定された場所で伏せて待っていなければなりません。

課目5(物品持来)を終えたチームは、〈伏せて待つ〉の課目を行う場所へと向かいます。エントリーナンバーが後のチームは、〈伏せて待つ〉の課目から始まりますので、リンクに入場して審査員への申告を終えたら、この課目を行う場所へと向かいます。

ハンドラーと犬は、リードを外してハンドラーが離れる方向に向いて基本姿勢をとります。審査員の合図で犬に伏せて待つための指示を出し、ハンドラーは振り返ることなく30歩進んで指定された犬から見えない隠れ場所に入ります。

ペアのチームが課目5(物品持来)を完了したら、審査員がハンドラーに犬のもとへ戻る合図をします。ハンドラーは犬のもとへ戻り、伏せている犬の右側に立ちます。

次の審査員の合図で犬に基本姿勢をとるための指示を出します。

ペアのチームが課目1~5を終えるまで、3m以上移動することなく伏せて待つことが出来ていれば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーの伏せて待つための指示で犬が自ら伏せ、ハンドラーが犬のもとに戻って基本

姿勢の指示を出すまで、位置を移動することなく落ち着いた態度で伏せて待つことが出来ており、最後の基本姿勢を正しくとることが出来れば理想的です。

犬が伏せて待っている間、ハンドラーが犬に指示を与えた場合や、ペアのチームが課目4(常歩中の立止一呼び寄せ)を終えるまでに3m以上移動した場合、得点は与えられません。

オビディエンス3度 100点

* リードは最初に行う課目の前に外します。全課目終了後に装着します。

1. リードなしで横に付いて歩く 20点 要領図

リード付きの犬を伴った2チーム(1ペア)がリンクに入場し、審査員の前に進み出てハンドラーと犬の名前を申告します。

エントリーナンバーの若いチームが出発点でリードを外し、基本姿勢をとり、審査員の合図で要領図の様に歩きだします。

犬が自らハンドラーについて歩くことが出来ていれば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーのすぐ横で、ハンドラーに集中して歩調を合わせながらついて歩くことが出来れば理想的です。(指示は、基本姿勢から歩き出す時と歩度の変更時のみの使用が理想です。群衆では、4名のうちの1名の周りを右回りで、もう1名の周りを左回りで、8の字を描く要領で歩きます。)

2. 常歩中の座れ 10点

出発点でハンドラーと犬は基本姿勢をとります。

審査員の合図で犬と共に歩き出し、10歩から15歩の間で歩度を変えることなく犬に座って待つための指示を出します。

その後、ハンドラーは振り返ることなく30歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。次の審査員の合図で犬のもとへ戻り、基本姿勢を取ります。

ハンドラーが座って待つための指示を出すまで、犬が自らハンドラーについて歩き、ハンドラーが30歩進んで犬と対面するまで犬が座って待つことが出来ていれば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーの座って待つための指示で犬が即座に座る動作に移り、その場から移動することなく落ち着いた態度で最後までハンドラーに集中して待つことが出来れば理想的です。

3. 常歩中の伏せ一呼び寄せ 10点

この課目は出発点に戻ることなく〈常歩中の座れ〉を終えた地点から始まります。(場合によっては出発点に戻ります。)

〈常歩中の座れ〉を終えた地点でハンドラーと犬は基本姿勢をとります。

審査員の合図で犬と共に歩き出し、10歩から15歩の間で歩度を変えることなく犬に伏せて

待つための指示を出します。

その後、振り返ることなく 30 歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。次の審査員の合図でハンドラーは犬を呼びます。

呼ばれた犬は、ハンドラーの正面、または直接ハンドラーの左側に来て座ります。

犬が前面停座（ハンドラーの正面に座ること）を行った場合は、一呼吸（明確な間）において犬に基本姿勢をとるための指示を出さなければいけません。

犬が直接ハンドラーの左側に来る場合、ハンドラーの一度の呼び寄せの指示で犬がハンドラーの左側に来て基本姿勢をとらなければいけません。

ハンドラーが伏せて待つための指示を出すまで、犬が自らハンドラーについて歩き、ハンドラーが 30 歩進んで犬と対面するまで犬が伏せて待つことが出来ており、その後ハンドラーが犬を呼び寄せることが出来れば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーの伏せて待つための指示で犬が即座に伏せる動作に移り、その場から移動することなく落ち着いた態度でハンドラーに呼ばれるまで集中して待ち、ハンドラーの呼び寄せの指示で犬が自らハンドラーの正面、或いはハンドラーの左側を目指した明確な動作を実行し、前面停座と基本姿勢を正しく取ることが出来れば理想的です。

4. 常歩中の立止—呼び寄せ 10 点

この課目は出発点に戻ることなく〈常歩中の伏せ—呼び寄せ〉を終えた地点から始まります。〈常歩中の伏せ—呼び寄せ〉を終えた地点でハンドラーと犬は〈横について歩く〉の出発点に向かって基本姿勢をとります。

審査員の合図で犬と共に歩き出し、10 歩から 15 歩の間で歩度を変えることなく犬に立って待つための指示を出します。

その後、振り返ることなく 30 歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。次の審査員の合図でハンドラーは犬を呼びます。

呼ばれた犬は、ハンドラーの正面、または直接ハンドラーの左側に来て座ります。

犬が前面停座（ハンドラーの正面に座ること）を行った場合は、一呼吸（明確な間）において犬に基本姿勢をとるための指示を出さなければいけません。

犬が直接ハンドラーの左側に来る場合、ハンドラーの一度の呼び寄せの指示で犬がハンドラーの左側に来て基本姿勢をとらなければいけません。

ハンドラーが立って待つための指示を出すまで、犬が自らハンドラーについて歩き、ハンドラーが 30 歩進んで犬と対面するまで犬が立って待つことが出来ており、その後ハンドラーが犬を呼び寄せることが出来れば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーの立って待つための指示で犬が即座に立って待つ姿勢をとり、その場から移動することなく落ち着いた態度でハンドラーに呼ばれるまで集中して待ち、ハンドラーの呼び寄せの指示で犬が自らハンドラーの正面、或いはハンドラーの左側を目指した明確な動

作を実行し、前面停座と基本姿勢を正しく取ることが出来れば理想的です。

5. 物品持来 15点

ハンドラーは右手にダンベルを持ち、犬を伴って基本姿勢をとります。

審査員の合図でダンベルを前方(最低10歩程度)に投げ、ダンベルが完全に静止してから、犬にダンベルを持って来るための指示を出します。

ダンベルを持って来た犬は、ハンドラーの正面、または直接ハンドラーの左側に来て座り、ダンベルの受け渡しを行います。

ダンベルの受け渡しについては、犬が座ってから一呼吸(明確な間)においてダンベルを放すための指示を出さなければいけません。

ダンベルを受け取ったら、ハンドラーはダンベルを右手に持ち、腕を下に向けて伸ばします。

犬が前面停座(ハンドラーの正面に座ること)を行った場合は、その後一呼吸(明確な間)において犬に基本姿勢をとるための指示を出さなければいけません。

犬が直接ハンドラーの左側に座る場合は、犬がハンドラーの元に来た時に、ハンドラーの指示なしで犬が自発的にダンベルを咥えたままハンドラーの左側に座らなければいけません。

ハンドラーがダンベルを投げたのち、持来の指示があるまで犬が待機し、ハンドラーの持来の指示で犬が自発的にダンベルをハンドラーの元まで持って来て、ハンドラーにダンベルを渡すことが出来れば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーの持来の指示で、犬がはっきりとした目的意識を持ってダンベルを取りに行き、ためらうことなくダンベルを咥えてハンドラーに持ち帰り、ダンベルをハンドラーに渡すまで正しい位置に座ってダンベルを確実に咥え続け、受け渡しで明確にダンベルを離すことが出来れば理想的です。

6. 障害物品持来 15点

ハンドラーは右手にダンベルを持ち、障害板の最低5歩手前で犬を伴って基本姿勢をとります。

審査員の合図でダンベルを障害板の向こう側に投げ、ダンベルが完全に静止してから、犬に障害板を飛び越えるための指示を出し、犬が障害板を飛び終えるまでに、ダンベルを持って来る指示を出します。

犬は障害板に触れることなく飛び越え、ダンベルを咥えて再び障害板を飛び越えてダンベルを持来しなければいけません。

ダンベルを持って来た犬は、ハンドラーの正面、または直接ハンドラーの左側に来て座り、ダンベルの受け渡しを行います。

ダンベルの受け渡しについては、犬が座ってから一呼吸(明確な間)においてダンベルを放す

ための指示を出さなければいけません。

ダンベルを受け取ったら、ハンドラーはダンベルを右手に持ち、腕を下に向けて伸ばします。

犬が前面停座（ハンドラーの正面に座ること）を行った場合は、その後一呼吸（明確な間）において犬に基本姿勢をとるための指示を出さなければいけません。

犬が直接ハンドラーの左側に座る場合は、犬がハンドラーの元に来た時に、ハンドラーの指示なしで犬が自発的にダンベルを咥えたままハンドラーの左側に座らなければいけません。

障害板の高さは下記の通りです。

体高 30cm 以下 最低 10cm

体高 40cm 以下 最低 20cm

体高 50cm 以下 最低 30cm

体高 50.1cm 以上 最低 40cm

体高測定は審査員が必要と判断した場合に実施します。

また、ダンベルを投げた時、障害板に対してダンベルが大きく横に逸れてしまうなど、作業を行うには不適切な位置にダンベルが留まってしまった場合、審査員に申告して認められればダンベルを投げ直すことが出来ます。

ハンドラーがダンベルを投げたのち、障害板を飛び越える指示があるまで犬が待機し、ハンドラーの障害板を飛び越える指示で犬が自発的に障害板を飛び越え、ハンドラーの持来の指示で犬がダンベルを取りに行き、障害板を飛び越えてハンドラーの元までダンベルを持って来て、ハンドラーにダンベルを渡すことが出来れば、作業が成立したと見なします。ダンベルに向かうとき、ハンドラーにダンベルを持来するとき共に、躊躇なく障害板を飛び越え、ハンドラーの持来の指示ではっきりとした目的意識を持ってダンベルを取りに行き、ためらうことなくダンベルを咥えてハンドラーに持ち帰り、ダンベルをハンドラーに渡すまで正しい位置に座ってダンベルを確実に咥え続け、受け渡して明確にダンベルを離すことが出来れば理想的です。

7. 前進及び伏せ 10点

出発点でハンドラーと犬は基本姿勢をとります。

審査員の合図で犬と共に歩き出し、10歩から15歩の間で歩度を変えることなく犬に前進の指示を出します。

この時、ハンドラーは指示と同時に腕を前に伸ばしてもかまいません。

犬が前進の作業を実行し始めたら、ハンドラーはその場に立ち止まります。

犬が前進の作業を実行している間、ハンドラーは腕を前に伸ばした姿勢のままでも構いません。

次の審査員の合図でハンドラーは犬に伏せるための指示を出します。

その後、審査員の合図で犬のもとへ行き、審査員の合図で基本姿勢を取ります。
ハンドラーが前進の指示を出すまで、犬が自らハンドラーについて歩き、審査員の合図があるまで競技リンクの向こう側の面に向かって前進し、その後ハンドラーの指示で犬が伏せれば、作業が成立したと見なします。
ハンドラーの前進の指示で犬が自ら競技リンクのほぼ中央ライン上を目的意識を持って前進し、ハンドラーの伏せるための指示ですぐに犬が伏せ始め、ハンドラーの基本姿勢の指示があるまで落ち着いた態度で伏せた姿勢を保つことが出来れば理想的です。

8. 伏せて待つ 10点

ペアのチームが課目 1～6 を行っている間、犬は指定された場所で伏せて待っていなければなりません。

課目 7(前進及び伏せ)を終えたチームは、〈伏せて待つ〉の課目を行う場所へと向かいます。
エントリーナンバーが後のチームは、〈伏せて待つ〉の課目から始まりますので、リンクに入場して審査員への申告を終えたら、この課目を行う場所へと向かいます。

ハンドラーと犬は、リードを外してハンドラーが離れる方向に向いて基本姿勢をとります。
審査員の合図で犬に伏せて待つための指示を出し、ハンドラーは振り返ることなく 30 歩進んで指定された犬から見えない隠れ場所に入ります。

ペアのチームが課目 6 (障害物品持来)を完了したら、審査員がハンドラーに犬のもとへ戻る合図をします。ハンドラーは犬のもとへ戻り、伏せている犬の右側に立ちます。

次の審査員の合図で犬に基本姿勢をとるための指示を出します。

ペアのチームが課目 1～6 を終えるまで、3m以上移動することなく伏せて待つことが出来ていれば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーの伏せて待つための指示で犬が自ら伏せ、ハンドラーが犬のもとに戻って基本姿勢の指示を出すまで、位置を移動することなく落ち着いた態度で伏せて待つことが出来ており、最後の基本姿勢を正しくとることが出来れば理想的です。

犬が伏せて待っている間、ハンドラーが犬に指示を与えた場合や、ペアのチームが課目 5(物品持来)を終えるまでに 3m以上移動した場合、得点は与えられません。

	ビギナー		OB 1 度		OB 2 度		OB 3 度	
犬名						生年月日		
犬種			性別	牡・牝		外ウ or チップ		
指導手	会員番号							
所有者	住所・TEL							
	M	B	G	SG	V	OB チャンピオンポイント付与 (OB 1、2、3 度) 有 ・ 無 V = 1 0 P SG = 7 P G = 5 P		
10	0-6.5	7-7.5	8-8.5	9-9.5	10			
15	0-10	10.5-11.5	12-13	13.5-14	14.5-15			
20	0-13.5	14-15.5	16-17.5	18-19	19.5-20			
25	0-17	17.5-19.5	20-22	22.5-23.5	24-25			
50	0-34.5	35-39.5	40-44.5	45-47.5	48-50			
100	0-69.5	70-79.5	80-89.5	90-95.5	96-100			
課 目	B	1	2	3	評価	得点	講 評	
1 紐付きで横について歩く	15	---	---	---				
2 紐なしで横について歩く	---	15	25	20				
3 座って待つ	10	---	---	---				
4 常歩中の座れ	---	10	10	10				
5 伏せー呼び寄せ	15	---	---	---				
6 常歩中の伏せー呼び寄せ	---	15	15	10				
7 常歩中の立止ー呼び寄せ	---	---	15	10				
8 物品持来	---	---	20	15				
9 障害物品持来	---	---	---	15				
10 前進及び伏せ	---	---	---	10				
11 伏せて待つ	10	10	15	10				
最小採点は 0.5	50	50	100	100			審査員署名	
* 主催者は試験報告書＋登録料を OPDES 事務局に 1 週間以内に提出すること * 審査表は担当審査員が最低 3 年間保管すること（主催者にも事務局にも提出しない）								